

はじめに

2004年の機構改革、事業再編成を機に、それまで『日本語国際センター紀要』として発行されていた本書が、『国際交流基金日本語教育紀要』として装いを新たに発行されてから、早くもここに第2号をお届けできることは、私どもの慶びです。

本紀要には、当基金の日本語教育事業に携わる日本語教育専門員・専任講師、客員講師、派遣専門家、職員等が、日々の活動の中で取り組んできた問題や課題をまとめた「研究論文」(オリジナルな研究成果をまとめた理論的・実証的論文)、「研究ノート」(研修、教材開発などの実施過程でまとめられた中間研究報告等)、「実践報告」(研修、教育、教材開発などの実践の目的、特色、経過、成果等について紹介、分析した報告)、「報告」(国際交流基金が実施する事業に関する報告や海外の日本語教育関係機関の視察報告等)として執筆したものの中から、編集委員会による厳正かつ公平な審査の下、計11編を選定し掲載しました。

私ども国際交流基金は、これからも、日本語教育の多様化の中で、より一層の日本語教育の充実と発展を願い、さらなる取組みを続けてまいりたいと思っております。

本紀要に対する各方面の皆様からの忌憚のない御意見、御批判をいただければ幸いです。

2006年(平成18年)3月

国際交流基金